

造林補助事業

採択基準 (平成26年度)

(委託・代理申請 共通)

- 地目は、山林に限ります。
- 1ヶ所 0.1ha (1反) 以上の面積が必要です。
- 植付けは植栽本数 概ね2,000本/ha以上
- 枝打ちは、平均枝打ち幅1m以上が必要です。

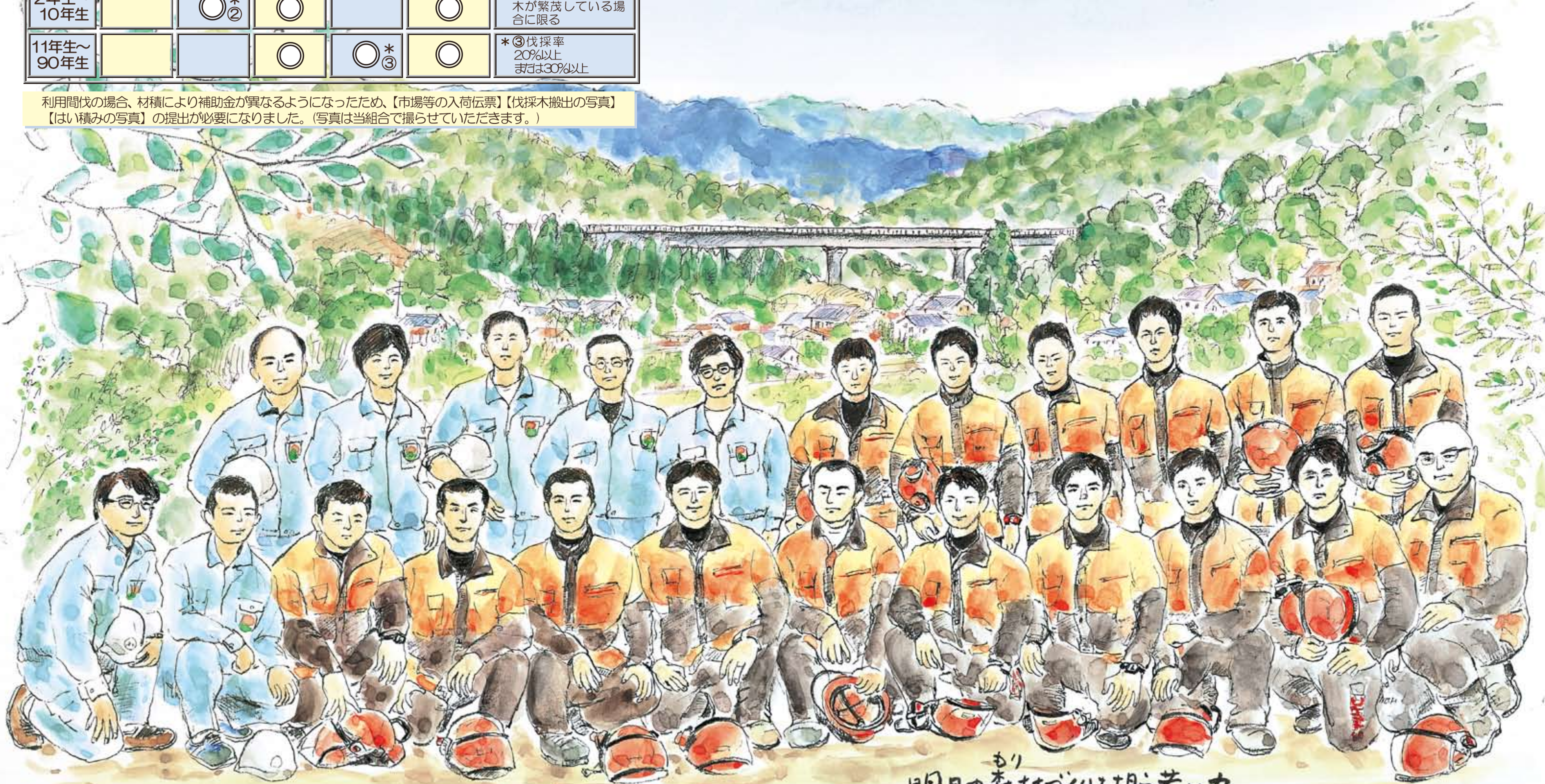
第31号

大紀森林組合だより

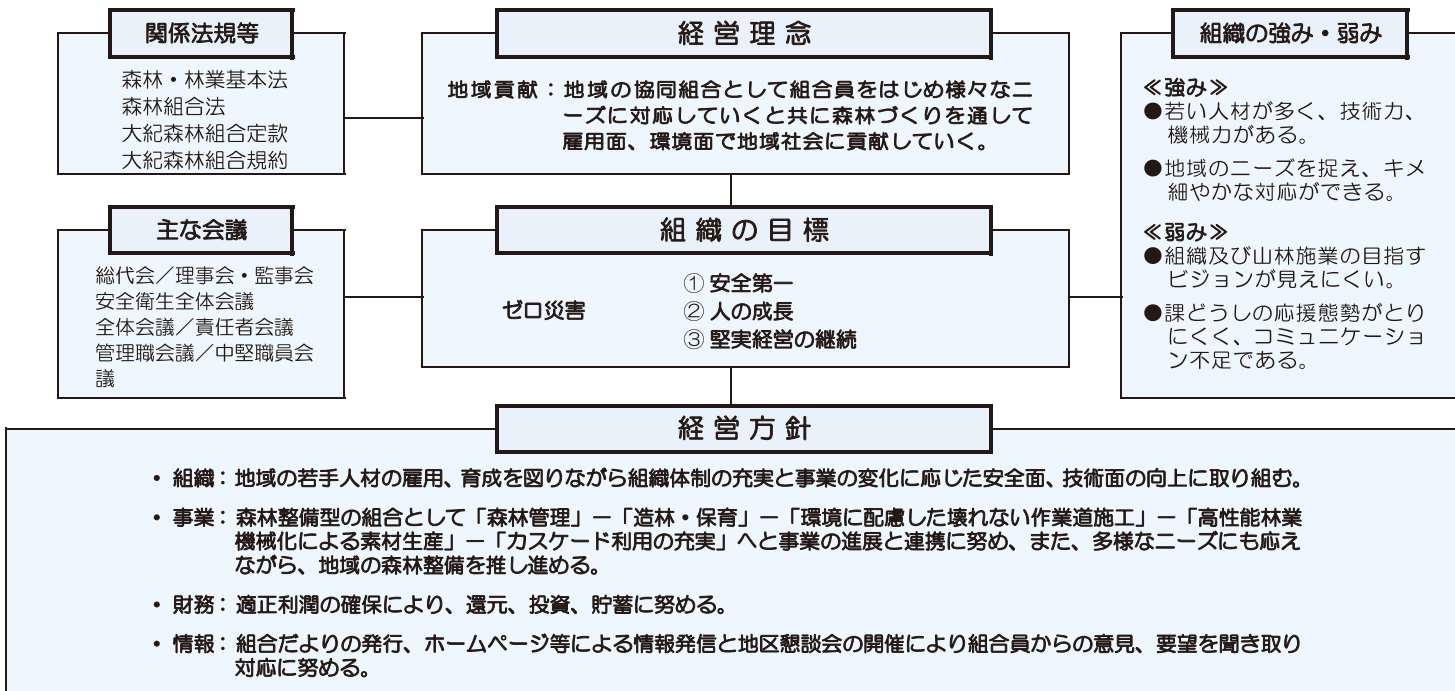
平成26年9月 発行

| 作業種 林齢 | 植付 | 下刈 | 枝打 | 除伐 間伐 | 森 林 作業道 | 備 考 |
|---------------|-----------------|-----------------|----|-----------------|------------|-------------------------|
| 1年生 | ○ ^{*1} | ○ | | | ○ | *①地拵えをする場合は作業前の写真が必要です |
| 2年生~ 10年生 | | ○ ^{*2} | ○ | | ○ | *②6年生以上は雑草木が繁茂している場合に限る |
| 11年生~ 90年生 | | | ○ | ○ ^{*3} | ○ | *③伐採率20%以上 または30%以上 |

利用間伐の場合、材積により補助金が異なるようになったため、【市場等の入荷伝票】【伐採木搬出の写真】
【はい積みの写真】の提出が必要になりました。(写真は当組合で撮らせていただきます。)



もり
明日の森林づくりを担う若い力



行動指針

グループ討議を積み重ね、職員の考えを取入れた行動指針を作成しました。

| 人として | プロとして | リーダーとして | チームとして |
|---|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ●素直さと謙虚さを持つ。 ●気遣いができる。 ●5Sができる。 (整理・整頓・清潔・清掃・しつけ) ●常識があり責任感と向上心を持ち続ける事ができる。 ●信用・信頼を得る。 ●礼節を心掛ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ●常に安全で最良の判断ができる。 ●知識、技術を身につける。 ●一人一人が仕事の内容・意味を理解する。 ●与えられた役割に対し常に向上心を持ち、創意工夫を忘れずベストを尽くす。 ●結果を自ら反省し、改善する。 ●山に対する気遣いを持つ。 | <ul style="list-style-type: none"> ●チームの目指すものを把握し、組織の力量を把握した中で成果をあげる。 ●部下を信頼し、能力を把握し、適切な仕事を任せることでその能力を伸ばしていく。 ●時間配分や全体を見て仕事ができる。 ●チームの問題を客観的に見れる。 ●明確な高い目標を持っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ●目的を達成するためコミュニケーションをとり、一致団結して常に成果をあげる常勝軍団 ●班員の個性と意見を尊重して、知識とアイデアを共有していく。 ●話し合い、助け合い、協力し合い、都合のつけ合いをする。 ●トップダウンとボトムアップのバランスを考慮する。 ●信頼関係を結び、本音で対話ができる姿勢 |

人材育成カリキュラム

| 主な資格取得 | | |
|-----------------|-----|---------------|
| 間伐技術指導員 | 10名 | 一級土木施工管理技士 2名 |
| 路網作設オペレーター上級指導者 | 1名 | 二級土木施工管理技士 5名 |
| 林業技士(林業経営)他 | 20名 | 森林インストラクター 1名 |
| フォレストワーカー | 13名 | 第一種衛生管理者 1名 |
| フォレストリーダー | 3名 | 安全衛生推進者 1名 |
| フォレストマネージャー | 1名 | 毒物劇物取扱者 1名 |
| 測量士 | 1名 | 労務管理士 1名 |
| 測量士補 | 5名 | 森林組合監査士 1名 |
| 二級造園施工管理技士 | 2名 | 森林施業プランナー 1名 |

| 経験年数 | 研修 | 内容 |
|---------|------------------------|--|
| 1~3年 | フォレストワーカー(林業作業士) | XI 払機取扱作業者 伐木等業務・玉掛け 走行集材機械特別教育 伐木等機械特別教育 等 |
| 5年 | フォレストリーダー(現場管理責任者) | 造林作業指揮者 |
| 10年 | フォレストマネージャー(総括現場管理責任者) | 安全衛生推進者 |
| 12年(高卒) | 間伐技術指導員 | 林業全般研修 (安全・計画・調査・環境) |
| 14年(高卒) | 林業技士 | 林業経営・森林環境 |

2014.8.31(第1回) in 神去村~ みねチェーンソー技術競技大会 優勝



チーム大紀 谷口有希、小山正洋、大西祐太郎

津市美杉町 道の駅「美杉」にて



安全と繊細な技術が必要な「枝払い競技」



日頃の成果を充分に発揮した「丸太薄切り競技」

中国河南省への視察

参事 岡田秀二



大商談会会場

去る4月2日~7日に中国の河南省へ大商談会と植林事業の視察にいかせて頂きました。中国23省の中の一つで、面積は16万平方km(日本の面積の約半分)、人口は約1億人(省の中では一番多い)です。まず、大商談会の会場(鄭州市)及び展示物を、次にログハウスの展示場を視察しました。ログハウス場では、現在も中国・韓国等へ木材輸出をしている鈴鹿木材の森会長が日本のヒノキを積極的にセールスしていました。しかし、現地企業はヒノキの価値を最大限発揮できる住宅などの開発力が今一歩で、今後はこの商品開発に意欲のある企業を探すことが大切だと思いました。

視察の後半は三重県日中友好協会が窓口の基金事業で、今年の植林(クルミ800本植/ha 広葉スギ3500本植/ha)を行っている現場の調査・指導でした。そもそも言葉の違いから調査や意見交換に大変時間がかかり、植付現場は山林というより段々畑というイメージで、草や枝等は肥料や燃料にする為何もありませんでした。

こうした状況を目のあたりにし、今後、経済成長と共にPM2.5や黄砂が偏西風により日本に益々悪影響を及ぼすことを思う時、この植林活動がたとえ微々たるものであっても継続していく必要があると改めて実感いたしました。

今回の視察で得たものは大きく、見聞も広めることが出来、プラスのことばかりでした。最後になりますが、中国河南省政府の関係者並びに鈴鹿木材の森会長と申さん、そして視察先等、私の意見をいろいろ取り入れていただいた花井課長には深く感謝申し上げます。



高尾山 クルミの苗木 1年生(H=0.85m)

地区懇談会での主な質疑応答

平成26年7月1日~3日

紀勢地区

- Q 県民税という災害とはどんな災害か。そして、災害に強いとはどの程度か。
 A 竜巻や地震でも森林に災害があれば県民税の対象となります。災害の強さの判断はありません。しかし、土砂や流木を出さない森林づくり、暮らしに身近な森林づくりを行います。(県回答)
- Q 奥山(見えない場所)を伐採した事が原因で災害が発生する事が有りますが、伐採届出等はどうなのか。
 A 伐採届は必要です。数年前から所有者と伐採者が連名で提出することとなっております。ですから、伐採した人や場所などは把握しております。(町回答)

A 切り捨て間伐として補助金は受けられます。(回答 森林組合)

大内山地区

- Q 森林は若者にとって魅力がなくなってきています。間伐を行い少しでも生活の足しになればと思います。木質バイオマスについては、個人で持っていきよりも組合がまとめて出す方がトン当たりの単価が高いと聞いたのですが、考えをお聞かせください。
 A 他の地域ではそういう取り組みを行っているところもありますので、今後、役員会で検討させていただきます。(回答 森林組合)

大宮地区

- Q 環境林と保安林の区別がつかないので教えてください。
 A 三重県では概ね道から400m以遠を環境林、以内を生産林としそれぞれ森林整備を進めています。保安林には水源涵養林など様々な機能があり、国が指定しています。また、伐採等の届出の義務や制約があります。固定資産は免除されます。(回答 森林組合)

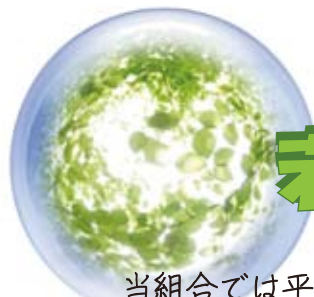
- Q 作業道を使用して行う車輻集材では、地理的な条件の悪いところについては対応できない。架線集材も必要ではないのか。
 A 今のところ山全体の30%程度しか作業道を設置しての利用間伐等は行っておりません。あとの70%については急峻な地形で利用間伐は難しい面があります。理事会においても架線技術の導入という意見もでており、将来的には作業道の作設ができないところは必要と考えております。ただし、災害の発生率の高い施業ですので早急に架線集材に踏み込むことは考えておりません。まずは作業道を付けさせていただいて利用間伐等を進める方向でいきたいと考えております。(回答 森林組合)

- Q 間伐の補助申請の時期はいつごろですか。
 A わかっているのであれば前年の11月までお願いいたします。しかし、随時受付しておりますので分かり次第ご連絡ください。(回答 森林組合)

- Q 利用間伐をしていて途中で事情があり切り捨て間伐にしても補助を受けられるのか。

訃報のお知らせ

今年1月に林産課長 服部和徳氏(50才)が逝去されました。謹んでご冥福をお祈り致します。



大紀地域の森林づくりを担う

若手職員の活動報告

当組合では平成7年度から地元を中心に若者の雇用、育成に力を注いできました。長引く林業不振の状況と3K(キツイ、汚い、危険)の職場として施業環境が大変厳しい中、現在、全従業員65名の内20~30代の22名が事務・現業の職員として、それぞれの役割を果たすべく日々業務に取り組んでいます。

今年5月に都会の若者が林業体験を通して成長していく姿を描いた映画「WOOD JOB ウッジョブ ~ 神去なあなあ日常」が公開され、林業の職場が一躍注目を浴びてきました。

明日の森林づくりを担う当組合の若者も今後互いに切磋琢磨しながら、安全面、技術面、そして組織人として更なる向上に努め、地域にしっかりと根差していくことが求められます。また、そのことが将来にわたり組合経営の継続と組合員サービスをはじめ地域環境、地域社会への貢献に繋がっていくものと思っています。

今回はそうした若手職員にスポットをあて、その活動状況の一端を紹介させていただきます。

今後とも温かいご支援をよろしくお願い致します。

参事 岡田秀二



継承

ベテランから若手への知識・技術の継承



伐倒 寒川室長から伐倒技術の基本を学ぶ



作業道 大野班長から“壊れない道づくり”の基本を学ぶ



造材 嶋田班長から有利な造材の仕方を学ぶ

安全

安全第一・安全は全てに優先する



準備体操・朝礼から一日が始まる



新人へのチェーンソー目立ての指導



始業前に安全作業の再確認

安全装備：保護具を整えた作業スタイル



準備

成果は準備が全て 綿密な計画作成



実践にむけての施業の打合せ

挑戦

新たな環境の変化に対する若者の挑戦



ハザードマップの作成 (災害時の森林道とリスクの見える化)



多様な依頼作業(災害木の処理)



新たな技術への挑戦 (ぶり縄による枝落し)



機械化への対応 (メンテナンスの知識・技術の取得)

実践

植えて、育て、伐って、再び植える 循環型森林づくりの実践



“伐倒方向ヨシ” 主伐は適齢期を迎えた立木の収穫作業



プロセッサで枝払い・玉切りを安全に効率的に行います



最新鋭の国産IHIフォワードは力強い仲間です



伐倒・造材・運搬からカスケード利用までを担う林産チーム、モットーは“連携”です



間伐は林内に陽ざしを入れ、健全な森林に育てます



将来の良質材を作るための枝落とし作業

間伐

地域とのつながりを大切に



まつりで人気の木工教室

流通



20tトレーラーへの積み込み作業 “出荷準備完了”



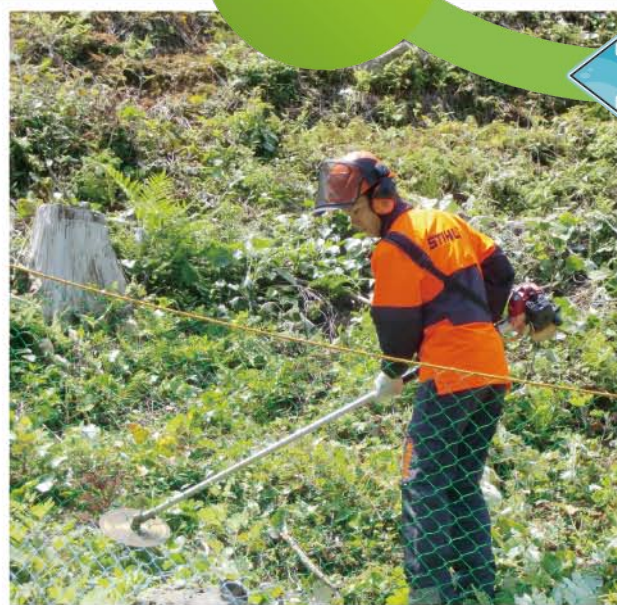
仕分け、寸検作業は出荷先との信頼関係の礎です

下刈

植付



夏の下草刈はキツイ作業です、保全チームは“みんなの力”で乗り切ります



苗木の成長を助けるために下草刈を行います



木を植えることは大切です

“根がしっかりと張るように思いをこめて”



精度の高い実測図面の作成は森林管理の基本です